

相談がしやすい短学活相談ノートの研究

パソコンソフトを利用しての製作

目 次

I 研究テーマ設定の理由	103
II 研究内容	104
1. 教育相談がしやすい学級づくり	104
2. 中学生の心理的特質	104
3. 短学活相談ノートのねらい	105
4. 短学活相談ノートの活用の準備	106
5. 教育相談の必要性	106
6. 教育相談の内容	107
7. 教育相談で生徒をどう理解するか	108
8. 学級担任が行う心の教育	109
9. 短学活相談ノートの誓い	111
10. 短学活相談ノートの形式	112
11. 短学活相談ノートの書き方	114
12. 短学活相談ノート見方、観点	116
13. 短学活相談ノート使用上の留意点	118
III 今後の課題	119
IV おわりに	120

浦添市立浦添中学校教諭

石 川 文 勇

教育相談がしやすい短学活相談ノートの研究

—— パソコン・ソフトを利用した資料作成 ——

浦添市立浦添中学校教諭 石川文勇

I テーマ設定の理由

教師は自らの実践から学び、成長する。といわれている。それは自分の30余年の教職生活を振り返ってみてもうなずけるものである。わたしもこの20余年間は1つの教育課題を中心に成長してきたような気がする。今回の研修もその教育実践の総まとめと云えるものである。わたしが同じ研究テーマを長い間続けてきた動機と云うものは、「生徒の気持ちをどの様に受け止めたら、生徒が自分から意欲をだして学習に取り込むよくなるか。」ということである。

そこで先ず私が考案したことは、次のようなことであった。それは朝の学活にメモ表を配り、それに学校生活についての行動をメモさせて、帰りの学活で反省の資料として使おうというものであった。メモ表の内容は、学校時刻のメモ、学習の理解に関するメモ、学校生活での行動のメモ、学校生活をみわたして1日の簡単な感想メモ、最後に教師が生徒のメモを読みましたという意味を示すサインをするという内容になっている。そんな簡単なものであったがそれを学級運営の中で実際に使ってみると当初の予想をはるかにこえて、いい結果をもたらすものであった。それは学級の雰囲気を次第によい方向に変えていったのである。たとえば生徒たちの表情が明るくなり精神的に安定して、係活動や奉仕活動が活発になり、生活を初め、学習活動においても積極的な態度が形成されていったのである。これが第一にわたしの予想以上の成果であった。どうしてそのような成果がでるかについては生徒の精神的な発達と深い関係があるように思える。私の場合は、その具体的な内容を理解する以前に、次の理由によりこのノートにひきつけられたのであった。

- (1) 誰でも書ける。
- (2) 毎日書いてくれる生徒が沢山いる。
- (3) 必要に応じて何年でも継続して書くことができる。
- (4) 喜んで書いてくれる。
- (5) 自分で自分の行動を見ることができる。
- (6) 実感を伴った自己反省ができる。
- (7) 教育相談が自然なかたちで深まっていく。

以上がこれまで学活ノートを使ってきた理由であるが今回の研修で、明確に短学活相談ノートと位置づけて、これまでの反省の上に立ってまとめたいと考えている。

II 研究内容

1. 教育相談がしやすい学級づくり

短学活相談ノートの研究内容は、生徒が情緒的に安定し自由な雰囲気です自主的な学習や生活ができる学級環境をつくるのを目標にしている。そのためには気楽に日常的に教育相談ができる条件を整える必要がある。学校での教育相談は学習にたいする考え方や態度が中心になるので、具体的な生活の中から資料をもとめるのがよいと考えている。

日常の教育相談を行う時間は普通は短学活の時間か、その前後が多い。短学活の時間の場合いろいろと話したいことが多い割に時間が短くて話したいことも話せない生徒もいる。そのような場合にノートにメモしておけば教師は短学活終了後にそのメモをみて、必要な相談ができるのである。また相談に至らなくても生徒の気持ちが理解できるのである。実はこのようなことが生徒の情緒を安定させて、学級を明るくするものになると考えている。いわば生徒の心の中に先生に知らせてあるという安心感と信頼感が育つのであろう。朝の短学活は、一日の学校生活を方向づける大切な時間であるし、帰りの短学活の時間は、一日のまとめや反省の時間として重要である。この時間の生徒の心を大切にしたいのである。教育の原点は一人ひとりの生徒の心を育てることにあるといわれている。個性尊重の時代をむかえ、学級担任として一人ひとりの生徒のきめの細かい理解が要請されているのではないだろうか。

2. 中学生の心理的特質

中学時代は、自我の発達めざましい反面、行動がそれにとまなわないといわれている。この時代の生徒の考えと行動のアンバランスが時には素晴らしい創造に結び付く事もあるし、問題行動の原因になっている場合もある。

この時代は自我は確立されて行くが、それにとまなう行動に自信が持てないのである。このことが中学時代の情緒の不安定の一つの原因にもなっている。この時代の心の成長のなかで強い欲求は承認の欲求と自己実現の欲求である。そのために教師は、生徒と心理的な結びつきをもち具体的な生活の場面で認めてやることが大切である。また、自我の望ましい発達を促すために自己実現の場面を作ってやり、自主的な生活を創造させることも大切である。

中学時代には、また自己中心であった意識に変化が生じ、他人の考えが新たな意味を持つようになってそれが自己理解の出発点でもある。ところで人間の成長にとって大切なことは自己を正しく理解することであり、この自己理解の指導をどのようにすればよいか。この方法をみだすことはなかなか容易ではない。わたしは偶然ともいえる工夫によって自分としては大きな抵抗もなく生徒の自己指導を援助することができるようになった。

中学時代は心身の成長に伴いいろいろな夢が広がる時期でもある。一人ひとりの生徒はそれぞれの胸にいろんな夢をみだしていることでしょう。これらの夢のなかにはだれかに自分の気持ちを知らせたいということを含んでいるのです。私はこのような中学生の心理的特質を考えて、朝と帰りの短学活に短学活相談ノートを使って学級運営をやってみた。その結果はそれが中学生の心理的特質と合致して楽しい学級経営をすることができた。それは短学活相談ノートの利用によるものであるが、このノートの実践のなかでいろいろと学ぶことが多いことが分かった。なかでも生徒が自分の行動メモを継続してかくことにより、自分の思いや夢が華

やかな割に行動がそれに伴わずいかに単調であるかに気づくことである。そのうち自己の行動と心のアンバランスに目覚めるものがあるが、目に見えて行動変容がみられる生徒もいる。このように自分の思いと行動に大きなずれがあることに気づくことが、自己理解の体験にもなっているのである。また、このときの心のいたみが新しい行動のエネルギーとなり、自己指導に発展すると考えることもできる。生活に変化をつけるには新しい行動が必要であることを理解するようである。本当のやる気とはそのような理解のうえに立つものであると考えている。

3. 短学活相談ノートのねらい

(1) 教育相談がしやすい

生徒が教育されていく過程には、教育相談がなくてはならない。教育相談は全ての生徒に必要なものである。しかしこの重要な教育相談の意義がはたしてどれだけ理解されているだろうか。いま教育相談として行われているものはたいがい問題行動に関するもので、一部の生徒が何回となく相談をうけているのが実状である。あるいは学校によっては教育計画のなかで期間をきめて一斉に教育相談が行われているところもあるがその内容は教師があらかじめ準備した進路相談的なものである。この様な相談からは生徒の生き生きした意欲を引き出すことは難しいと考える。

ほんとうの教育相談はもっと生徒の生活に密着した現実味のあるものでなければならないと考える。一人ひとりの生徒は毎日の学校生活で何かを感じ、何かを考え、何かを実践して、その人なりに一生懸命に生きている。そしてそれは決して平穩無事なものではないはずである。その心の内面は時には喜びに、時には行きずまり、時には悲しみに満たされているにちがいない。その心のなかで生起している喜びや悲しみのなかに教育相談の源はある。短学活相談ノートはこのような教育相談の原点に立って心の交流のなかで教育相談できるものである。短学活相談ノートのメモのなかには一人ひとりの生徒の「思い」や「行動」がそのままメモられているのである。短学活相談ノートがあれば必要におおじて、いつ相談しても心が行き違いが少なくなり具体的に共通の目標を意識しながら共感的な教育相談ができることを願っている。

(2) 生徒理解が深まる。

一人ひとりの生徒の感じ方、考え方はみんなそれぞれ特色があって同じものではない。短学活相談ノートのメモのなかにはその生徒のよこび、ゆきづまり、悲しみさえも含まれているのだ。そのように考えると一つひとつのその生徒のメモが何を意味しているのか教師にとってもその内容を学びたい意欲にかられるものである。生徒の心のなかに生活のなかで見つけた感動があって、他方教師の心にも生徒の能力を伸ばしたいという意欲があれば、そこに無理のない教育相談ができて、本当の生徒理解ができると考える。

(3) 心の教育を豊にして、やる気を育てる。

生活行動のメモは心の教育のいい資料である。それは単なる観察の記録ではなくそのメモの背景にある心の動きを呼び覚ましてくれるからである。1日の行動メモからは1日の精神活動が見えるのである。そのうち生徒は、精神活動が豊になれば行動も豊になるし、反対に精神活動が貧しくなれば行動も単調になることを学んでいくのである。

生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応するたくましい行動力はこのような精神活動から生まれると考えている。

4. 短学活相談ノート活用の準備

(1) 短学活相談ノートの使い方

(ア) 活用の時期は、最初の学級開きの日から無理のない形で使うのがよい。

(イ) 毎朝係が短学活相談ノートを皆の机の上にくばるので「始業前」のらんは、一斉短学活の前に個人個人で書いておく。

(2) 短学活相談ノート係を選出する。

(ア) 早登校をする生徒から選出。

(イ) 部活動に入っていないくて、時間にゆとりがある生徒。

(ウ) 責任感が強く、考えて行動できる生徒から選出。

(エ) ノート係として誇りをもって活動する生徒。

(3) ノート係の活動

(ア) 係の生徒は、早登校して8:20までに職員室からノートをとって皆の机の上にくばる。

(イ) 帰りの短学活終了後は自分で皆のノートを集めて職員室に持っていく。

(ウ) 皆のノートを丁寧に扱うように指導する。

(4) ノートを使う目的

(ア) 1日の学校生活に初めと終わりのけじめをつけ、学校生活を毎日反省することにより、自律心を養い、自主的な生活態度を育成して、学力の向上をはかる。

(イ) 自ら努力する喜びをしり、他の生徒の努力もみて、お互いに励まし合うことにより、望ましい人間関係を育成する。

(ウ) 毎日の行動メモを書いていくうちに、自己の行動の特性をしり、自己理解を深める。

(エ) 行動のメモを評価して点数にかえてその点数の変化を見ることにより自分の生活が向上しているのか、悪くなっているのかが理解できる。

(オ) 生徒、または教師が教育相談の資料として使用するとき、お互いが何について話しているのかが良く理解できて相談が深まっていき、相談の効果があらわれる。

(5) ノートと他の日誌との関係

(ア) 短学活ノートは毎日自分の個人的な事項を書くノートである。

(イ) 学級日誌は日直の時に全体的な立場から書くものである。

(ウ) 班ノートは班用で班長または班で決めた人が書く。

(エ) 清掃日誌は清掃班用で清掃終了後班で決めた人が書く。

5. 教育相談の必要性

学級担任として一人ひとりの生徒に相談したいことは沢山ある。たとえば学習意欲を高めるための開発的な指導はもとより、気になる態度や行動等の予防的な指導、及び問題行動等の治療的な指導等もそれである。しかしそのような相談がいつでも簡単にできるというものではない。むしろ普段の学校生活においてはそのほとんどは教師としては気になりながらも胸に納めたままになっていることも少なくない。教育相談は一人ひとりの生徒がかけがえのない存在で

あることを理解し、それぞれの自己実現を援助する最も基本的な活動であるが、そのタイミングと手がかりがいつでもそこにあるのではない。教師が相談しなければならないと思っても相談できないこともある。今や教育荒廃が叫ばれ、いじめや登校拒否、中途退学等の問題行動で学校は荒れている。

今日ほど教育相談が生徒、父母から要請されている時代も少ないと思われるが実際にはその教育相談が非常に低調なのはなぜだろうか考えなければならない問題である。

(1) 教育相談の成立

教育相談は教師や生徒が一方的に話しかければ成立するというものでもない。そこには教師と生徒がお互いの人間性を理解し、心に通じ合うものがなければならない。人間性の理解とは生徒の考え方や行動様式を十分に理解してお互いが信頼関係にあるということである。また心に通じ合うというのはその気持ちや内容が共感的に理解できて、お互いの人格が受け入れられていることを意味しているのである。

このような師弟関係は教育活動において最も重要で基本的なことだが、今日の学校教育においてはそれが学級担任と生徒との間に自然に形成されるというものではない。

私は学級の生徒と学級担任の間に教育相談ができる状況が形成されていることを「相談関係の成立」と考えて大切にしている。

(2) 相談関係の成立

教師と生徒の間に信頼関係が成立することは教育相談の前提条件であるがそれだけでは教育相談は成立しない。その信頼関係のほかにも何か必要なものがある。たとえば教師から生徒への声かけであっても、励ましであってもそれだけでは教育相談にはならない。教師の声かけ、励ましの言葉が何を意味しているか理解できる信頼感とお互いの心が共有している目標の存在が必要である。教育相談の成立は生徒と教師の信頼関係とその共有している目標の価値をお互いが認めてそれをもとにお互いが励ましあって成長していく過程にあるのである。

6. 教育相談の内容

教育相談は生徒の人間としての成長、発達を援助することであるから、どの子にも日常的に必要な教育活動である。教育相談は教師による一方的な相談ではなく、むしろ生徒の自発的な相談によって深まるものでなければならない。

教育相談の内容については、個人的な側面から見た場合には基本的な生活習慣の問題や学習に関することが主なものになっている。特に学習については、相談ノートの行動メモにもとづいて統合的な変化のもとになっている原因を生徒から好意的に聞く形の相談態様がよいと考える。しかしそれよりも難しいものは個人が集団としての生活を送るにあたってのさまざまな問題である。これらの諸問題との関わりの中でいろいろな問題行動を起こす生徒も少なくはない。

学級担任はこれらの生徒との人間関係を損ねる事なく、教育相談として高めるために、生徒の個人的な特性を充分理解して開発的な教育相談を行う必要がある。開発的な教育相談とは、単に問題を解決するためでなく積極性や主体性を養い協調性を持った責任感のあるこどもの育

成を日指すものである。このような教育相談のあり方が学校教育全体の中で行われることが大切である。

(1) 基本的な行動様式の形成

教育相談はどの子にも日常的に必要な教育活動である。どの子も適切な指導を受けることにより豊かな人間関係を経験するのである。特に生徒の成長にとって大切な基本的な行動様式を定着させるために次の事柄の継続的な指導が重要である。

- (ア) 目標を持った生活行動を身につける。
- (イ) 行動を反省して向上を目指す。
- (ウ) 自己の生活の流れを洞察できる。
- (エ) 豊かな人間関係が育つ態度を身につける。
- (オ) けじめのある行動を身につける。

(2) 対話を深め、内なる自分を発見する。

一人ひとりの人間の感じ方にはそれぞれ微妙な違いがある。対話はそれを教えてくれる。そしてその語り合いのなかで心が開かれ価値あるものに会っていくのである。

私達はみんな色々な感じ方で色々経験を持っている。それぞれの一人ひとりの人間が自分の感じ方や経験を素直に表現して対話を深め、お互いに相手の人間性を学びあうことが心の交流である。このような心の交流は人間理解の基礎をなすものであり、内なる自分を知らせるものでもある。人間は他人から学ぶ謙虚さを発見出来たとき真の友情や人間愛も育っていくのである。自分以外の他人は皆自分とひと味違う面白い感性をもったかけがえのないものである。

(3) 生徒の主体性、協調性、責任感を育てる。

新しい時代の変化に対応して生きていくための能力として今「主体性」の育成が大きな課題になっている。学校生活で主体性が身につけば集団生活のなかで必然的に協調性や責任感が育つと考えられる。問題は何によって主体性を育成するかである。ここでは学校生活の全体のなかで育成することになる。学級担任は短学活相談ノートというお膳立てを使って、その上に学校生活の新しい行動を発生させてその喜びと自信のなかに生徒の主体性を育てようというものである。下記の事項はそれを育てるためのノートについて配慮したことを書いたものである。

短学活ノートは

- (ア) 実践できる問題を具体的に与える。
- (イ) 実践できる時間を具体的に与える。
- (ウ) 実践の励みになる指導をする。
- (エ) 実践の価値や成果を理解させる。
- (オ) 実践を継続させる。
- (カ) 実践の成果を皆のために役立てる。

7. 教育相談で生徒をどう理解するか。

教育相談は集団の形態をとることもあるが基本的には生徒個人との一対一の関係において、

家庭との連絡を密にしながら学校に於ける具体的な資料にもとづいて行うことが大切である。

教育相談に用いる資料はできるだけ多面的な内容を持っていて統合的に理解できるものが適当である。なまの資料はそのまま用いることは適切ではない。短学活相談ノートを資料としてつかう場合については下記のような考え方で教育相談に用いている。

(1) 行動メモによる教育相談

生徒理解は教育活動において最も基本的なことである。今日の学校教育において生徒の問題行動が社会的な非難をあげているがそれは学校教育のなかにおいて生徒理解が充分になされていないことにたいする非難と考えるべきものである。

いま、生徒理解についての一つの問題点はそれが知的側面にかたよってそこから抜け出す実践理論が今の教育活動において十分に確立されていないためであると考えられる。このような反省にたつて短学活相談ノートは、知識にかえて行動的側面から生徒を理解しようというものである。

これまで行動的側面から生徒の理解がなされていた面もあるが、それはあくまでもその行動の一つ一つの価値を問うものであった。これに対して短学活相談ノートでは行動を独立したものと考えるのではなく、それを精神活動を構成している表現の一部であると考えるのである。その表現の一部をできるだけ原型のままに沢山集め、その根底にある精神そのものを内面から理解するものである。したがってこのノートでは、その生徒を理解するために行動を文章で表現させる必要はなく、簡単なメモの集まりで充分である。

教育相談の対象は「ある行動」のなかにあるのではなく、行動の全体的なリズムと構造のなかにあると考えている。

8. 学級担任が行う心の教育

(1) 自分をみつめる行動メモ

行動は心の窓と言われている。一つ一つの簡単な行動メモでもそれが集まり継続されるとその人なりが見えてくる。それがなによりも自分自身を見つめる心の窓になる。

(2) 友達関係を豊にする自主活動

行動は心の表現でもある。短学活相談ノートには自主活動の欄がある。給食の手伝いや清掃の手伝い、何気ない言葉かけのなかに自主活動の場がある。そこには友だち関係を豊にする友情が生まれる。

(3) やる気を育てる行動の変化

思いを行動に変え、イメージを表現に変えることを知った時、生徒は喜びを見いだす。それが変化を生んでやる気はそこで育っていくのである。

(4) 生徒との信頼関係

機会を与えて実践させ、指導して認めてやる。そこに心のふれ合いがあり、信頼が生まれる。成長とはそのような心の発達をいうのである。

ちょっとした教師の言葉やメモが生徒の励みになり、行動の変容をもたらすのだ。それが教師にとってもたまらなく嬉しいことである。

(5) 心の教育は心の出会いのなかにある。

「心とは何か」ということは、すでに昔から問題になっていた。どんなに知識を持った人で

も、自分の心の動きそのものを完全にコントロールすることはできず、逆に心の勝手な動きに悩まされることが多いといわれる。富める人も貧しき人も、若い者も年老いた者も昔も今も、人々は思うままにならない自分の心の動きに悩まされている。」 講座現代の心理学1－小学館より「」部所参考及び引用、上の文章は何を語っているのだろうか読む人によっていろいろ違いがあるであろうが、最少限人間の心の貧しさ、自分の心の弱さを思いしらされるであろう。反面人間の心の動きは複雑であり、神秘的でもある。他人の心の子供であれ、大人であれ、一方的に支配することはできない。心は一定の形を持ったものでもなく、一定の内容に限定されているものでもない。それは行動の特性のなかに見られるその人の人となりである。心の教育は心の出会いの中であって人間として的人格のふれ合いのなかで育っていくものである。生徒と学級担任とはお互いに心で教え合う仲でありたいものである。学級に入る時の担任の顔がいつも笑顔に輝いていればそれから生徒が学ぶものも大きいし、また真剣に生きる生徒たちの行動を観察し理解することによって、担任の顔にも新たな笑顔が生まれるのである。

学級経営の自己評価の方法にはいろいろあると思うが、担任が学級に向かうとき自然に笑顔を感じる学級である場合それは立派な学級経営であると言えるのではないかと思うのである。

私は短学活相談ノートを使っている経験からそう思うようになっている。

9. 短学活相談ノートの誓い

短学活相談ノートの活用

- I 目標をもって行動しよう。
 - 時間を大切にしよう。
 - 動作を機敏にしよう。

- II やる気を育てよう。
 - 授業の準備
 - ・説明を聞く。
 - ・ノートに書く。
 - ・要点を覚える。
 - 後かたづけ

- III 学用品をそろえる。
 - 鉛筆 3本
 - 本、ノート
 - 宿題はかならずやる。

- IV 自主的に活動しよう。
 - 朝の短学活 8:40~8:50
 - 帰りの短学活

- V 一年間継続しよう。
 - 継続は力なり。

10. 短学活相談ノートの形式

平成 年 月

一日一行で未来を開く。

始業前				A	学習面	B	生活面			C	自主活動			D	
月日	曜日	登校	気分	今日の連絡 (日直, 係, 先生)	評価合計	今日の授業 (教科名を書いて評価する。)	評価合計	給食	清掃	きまり	評価合計	一日一善	ベル席	自由欄	評価合計
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
31															
書 く 日 を	書 く 刻 を	気 分	不 安 △	悪 い ×	良 い ○	例 係+読書 (20分)	例 教科名 国理英社音数 評価 4 3 4 2 5 3	各最高点が15 点で外 10.5			各最高点が15 点で外 10.5				

左の表のA B C Dの合計	生活リズムの変化						○ 感じたことを書く。 △ その他 ◎ 考えたことを書く。 ☆ 実践したことを書く。	教師のサイン	
	30	40	50	60	70	80			90
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
今月の学級活動									
今月の道徳									

11. 短学活相談ノートの書き方

始業前				A	学習面	B	生活面	C	自主活動	D				
月日	曜日	登校	気分	今日の連絡 (日直, 係, 先生)	今日の授業 (教科名を書いて評価する。)	評価合計	給食	清掃	きまり	評価合計	一日一善	ベル席	自由欄	評価合計
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														
31														
				例 係+読書 (20分)	例 教科名 評価	国理英社音数 4 3 4 2 5 3	各最高点が15 点で外 10.5	各最高点が15 点で外 10.5						

左の表の A B C D の 合計	生活リズムの変化					○ 感じたことを書く。 △ その他 ◎ 考えたことを書く。 ☆ 実践したことを書く。	教師のサイン
	30	50	70	90			
1							教師のメモ、または認め印を押す。
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
今月の学級活動	主題名	主題名	主題名	主題名	主題名		
今月の道徳	主題名	主題名	主題名	主題名	主題名		

12. 短学活相談ノートの見方、観点

始業前				A	学習面	B	生活面	C	自主活動	D				
月日	曜日	登校	気分	今日の連絡 (日直, 係, 先生)	今日の授業 (教科名を書いて評価する。)	評価合計	給食	清掃	きまり	評価合計	一口一善	ベル席	自由欄	評価合計
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														
31														
				例 係+読書 (20分)	例 教科名 国理英社音数 評価 4 3 4 2 5 3		各最高点が15 点で外 10.5		各最高点が15 点で外 10.5					

左の表のA B C Dの合計	生活リズムの変化				○ 感じたことを書く。 △ その他 ◎ 考えたことを書く。 ☆ 実践したことを書く。	教師のサイン
	30	50	70	90		
	40	60	80	100		
1	<p>○ 積極的な行動力を身に付ける。</p> <p>○ 毎日の行動評価の点数がプラス方向に動いているのか、マイナス方向に動いているのかを観察して、生活態度を正す。</p>				<pre> graph TD A[問題の発見] --> B[自分の特性や行動の傾向に気づく] B --> C[望ましい自己を確立する] C --> D[生活面、学習面] D --> E[行動メモ] E --> F[問題の意識化] F --> G[関係づけ] G --> A </pre>	
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
今月の学級活動	主題名	主題名	主題名	主題名		
今月の道徳	主題名	主題名	主題名	主題名		

13. 短学活相談ノート使用上の留意点

短学活相談ノートのねらいは一人ひとりの生徒が日常の具体的な生活課題に直面するまで、「自己」を情緒や行動の面から客観的に理解するためのものである。また、教師がそれを援助するためのものである。

特に生徒にこのノートを活用させるにあたっては次の点に留意したほうがよいと思う。

- ① 集団指導とのけじめをつけること。学級日誌の活用の充実と並行する。
- ② 短学活相談ノートの目的をわかりやすく知らせること。
- ③ 記入された個々の生活行動については、とやかくいわないこと。
- ④ 教師の援助の重点は、いかにしたら生徒が継続して記入できるかにおくこと。
- ⑤ 生徒の変容に気を配り、できるだけ励ます資料としてつかうこと。
- ⑥ 学級運営のなかで短学活相談ノートの係をおいて、教師が不在の場合でも確実に所定の場所に保管できるように指導すること。
- ⑦ 教師は短学活相談ノートの記入いかにすべてのノートを大切に取扱い誠意をもって活用する。
- ⑧ 学級指導や道徳の資料として、できるだけみんなのものをつかう。
- ⑨ 教師はノートからうけるいい感想については、できるだけ発表してみんなのよろこびとする。
- ⑩ ノートを教育相談の資料としてできるだけ使うようにする。
- ⑪ 生徒指導するときの生徒理解の資料にする。直接行動メモを指導しない。
- ⑫ 父母との教育相談に用いる場合も適切な教育的配慮をする。

このように、短学活相談ノートを教師が誠実に活用していけば、しだいに生徒の共感をよびまして、毎日の記録に真剣に取り組むものである。このようななかで、一ヶ月間経過すると生徒はそれぞれ現実の自己の生活リズムと出会っていく。そして自分の生活行動が単調であることにあらためて戸惑い、一人ひとりの生徒がなんだかの心理的な葛藤を体験するようになる。

やがて、二ヶ月頃になると行動に変容がみられる生徒が現れるのである。

しかし、ここで注意すべきことは特定の生徒の行動変容を喜ぶあまり、他の生徒に失望させてはならない。むしろそれぞれの行動変容の喜びを、みんなの共通になるような資料の生かし方が重要である。そして、そのことがやがて一人ひとりの生徒に自信をあたえ、それぞれの行動変容を促すものになっていくのである。

継続は力なり、三ヶ月も経過していくと、個性や能力に応じて、より望ましい行動の質と幅をもった新しい自己の生活リズムを創造するようになる。それが生徒の内面からでるやる気である。つまり、やる気をそだてるには、まず主体性を養う必要がある。それは自分の目でものを見て、自分の頭でものを考え、自分の体で行動するときをはじめて本当の自分が主張できるようになることである。やる気とは、そのような精神的基盤から生まれると考えている。集団のなかで個が発揮できる環境それが学級でなければならないと考える。

Ⅲ 今後の課題

短学活相談ノートは、学級担任として学級の一人ひとりの生徒の心を受け入れることによってその心の教育を充実するために考案されたものであります。

一人ひとりの生徒の心の受け入れは、生徒理解によってなされるものである。その生徒理解を教育相談によって深めようというものである。いわば短学活相談ノートはその資料である。

また教育相談は心の教育の充実をめざすものであり、短学活相談ノートを使う目的もそこにある。心の教育は日常生活の中にあると考えているのである。このノートではそれを行動メモの教育的な利用によって、あるていど達成できると考えている。これがこのノートの特質がある。なぜそれを特質というかということ行動についてはこれまでも教育の対象としてきた。しかしこのノートを使う以前は行動に関しての教育は社会的な適応をねらいとした観念の方が大きかったのである。いわゆるそれは行動をしつけの対象としての概念であった。それはそれとしてその意味において立派な教育であるが、このノートではそれとは違う意味で行動を考えているのである。

つまりここでは、行動を心の表現と考えているのです。ですから行動を理解することによって心を理解しようというものです。だがその心の表現としての行動はほんとうの心の何万分の一の表現でしかないのです。ですからほんとうの心を理解するためには沢山の行動メモが必要と考えています。そしてそれらの行動メモは高度な専門的知識によって教育的に解釈されて生徒理解に利用できると考えています。

コンピュータの普及はこれまで不可能とおもっていたことを可能にしています。特に量的な処理や資料の分析に関しては、コンピュータの得意とするところであるし、その意味では今後大いに期待できるとおもいます。

今回の研修においてはコンピュータソフトの基礎的な活用が主で文字入力や図形入力等に関してはある程度目標が達成できたと考えている。しかしそれ以上のことは時間的に無理であった。今後はこのノートの資料分析に適したプログラムを開発できないものかと考えている。

特にこのノートでコンピュータによって分析したい要点は、ノートの始業前の欄の朝の気分の変化に関して、その因果関係の問題や学習面の自己評価と学校が行う成績評価の関係、生活リズムの変化と学業成績との相関関係などである。

学級運営のなかでこのノートはあくまでも個別指導の観点にたつものである。従来の学級会組織のなかでの活用である。日直や当番、各生活班の活動と平行して活動するものである。個人としての立場から学校生活を考えた場合、集団生活には色々な問題がある。そのなかにはみんなで解決すべきものがある。このノートはいわば後者の問題を解決することによって集団生活をより充実しようとするものである。一人ひとりの個性がのびのびと発揮できる学級づくりが今後の課題である。

IV おわりに

今回の研修は自分にとって有意義な機会であった。長い教職生活のなかで自分が見いだした課題の解決のまとめとしての研修の機会があたえられたからである。これまでの研修の過程のなかでまなんだことは、行動メモが人間の理解に役立つことを知ったことであった。人間が行動をおこすメカニズムは非常に複雑なようである。たとえば生活が改善される場合に行動がどのように変容していくかを考えてみてもそれは直線的な行動の向上ではなく、立体的で、構造的な心の変容のなかでおこるものと考ええる。

私は考案した当初は行動メモを単に短学活の教師の指導を助ける反省資料の1つとして考えていたのであるが、実際に行動メモ表を使って生徒指導を試してみるといろいろといい指導資料がえられるのである。

本研究の資料の活用は現在のところ、短学活の資料にとどまっているがこれからは学級指導を初めとして学級活動、道徳等の指導資料としても利用できるように工夫したいと考えている。

今回の研修で浦添市教育委員会の諸先生方を初め、琉大付属小学校の仲地重夫副校長先生、パソコンの技術指導をしてくださった近江商事の佐喜真明氏の諸先生方、また浦添中学校の金城正徳校長先生や諸先生方には生徒指導面でいろいろご指導をたまわり深く感謝し御礼を申し上げます。

<主な参考文献>

児童臨床心理学事典 岩崎学術出版社

講座 現代の心理学 1 小学館

ワンダフルBASIC 楽しいパソコン入門 共立出版社

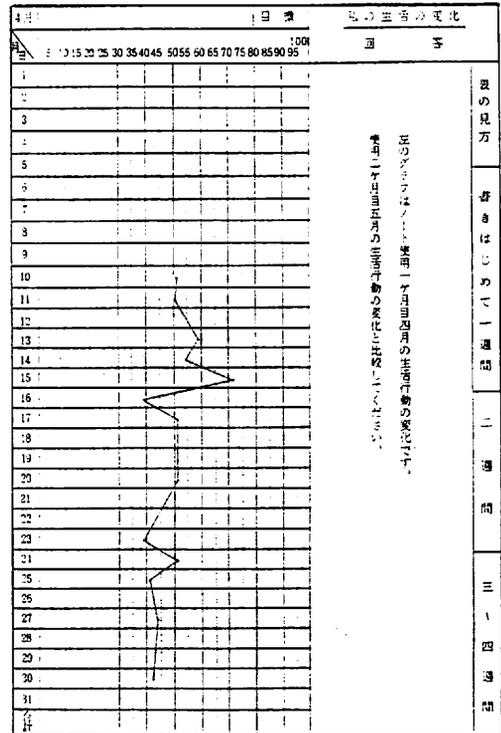
教育相談の計画と展開 ぎょうせい

IV 参考資料

中学生の実践例

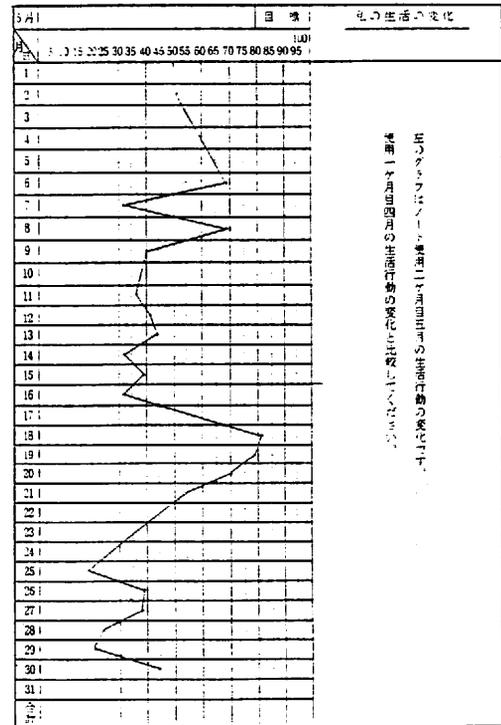
4月

項目		氏名		検出		22								
月	日	1	2	3	4	5	6							
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10	8:10	1分	社5	音3	体5	道4	数2	12分	3	3	4	0	5	
11	8:17	5分	英4	英5	理4	国5		15分	0	4	1	0	5	50
12														
13	17:47	2分	国5	音5	理	学3	英5	15分	2	2	4	0	4	64
14	8:12	1分	数5	英3	英4	英5	社4	15分	5	4	1	0	3	54
15	8:05	2分	体5	社4	英5	数4	理5	道2	10分	5	3	5	0	72
16	8:03	5分						15分	4	5	1	0	4	33
17	7:46	5分	社4	音3	体3	道4	数3	12分	5	4	4	0	5	50
18														
19														
20	8:08	2分	国4	音4	理5	学4	英4	体3	15分	4	4	1	0	51
21														
22	7:35													
23	8:10	2分	英4	英4	社2	数3	国2	英4	13分	3	3	4	0	46
24	7:40	5分	社3	音4	体5	道5	数3	理2	15分	4	4	1	0	54
25	8:05	1分	英4	英3		国5				4	5	2	0	41
26														
27	7:30	2分	国3	数4	英3	英5	社	12分	4	3	3	0	3	44
28	8:03	2分	国3											
29														
30	8:11	2分	英4	英3	社4	数3	国2	英5	19分	3	4	1	0	43
31														
合計														



5月

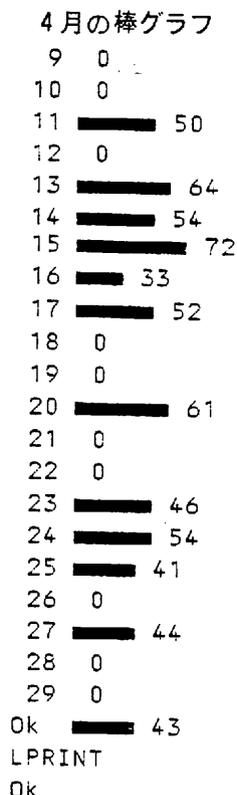
項目		氏名		検出		22								
月	日	1	2	3	4	5	6							
1														
2	8:05	1分	英5	英5	理B2	国2		6分	3	4	3	0	3	52
3														
4														
5														
6	7:50	2分	体4	社3	英4	数4	理A5	国3	16分	4	3	4	0	69
7	8:18	2分	社3	音2	体5	道4			5分	0	0	5	0	32
8	7:54	2分	数4	理B4	英4	体5			8分	3	0	0	0	68
9	7:50	3分	国2	道3	英5	英3			12分	0	0	5	0	40
10														
11	7:37	2分	国5	音3	理A5	英2			11分	5	0	0	0	36
12	7:30	3分	英5	社4	数3	理B4			6分	5	0	0	0	42
13	7:46	2分	英3	社4	英5	数4			3分	5	0	5	1	44
14	7:51	2分	英4	理4	社4	英4			7分	2	0	1	5	31
15	7:55	2分	社5	音4	体3	道5			12分	3	0	3	0	26
16	7:54	2分	英3	英4	理B3	国4			10分	4	0	0	5	31
17														
18	7:4	2分	国5	音4	理A3	英5	英3	社2	10分	2	5	5	0	80
19	8:00	2分	国3	数4	英4	英5	英4	社4	13分	3	0	3	5	79
20	7:45	2分	英3	社4	英5	数5	理A3	国1	14分	3	5	5	5	68
21	7:45	2分	英5	社5	英3				14分	2	0	0	0	54
22	7:45	2分	英4	体5	英3				5分	2	0	0	0	44
23	7:5	2分	国4	音2	理A3	学3	英2	体3	10分	1	0	0	0	18
24														
25														
26	8:05	2分	国4	数3	英3	英2	社3	2分	1	0	5	5	5	49
27	7:41	2分	英3	社4	英4	数4	理A2	国4	15分	1	0	0	0	37
28	8:10	2分	英2	英2	社3	数2	国2	英4	14分	1	0	0	0	73
29	7:55	2分	社4	音2	体3	道2	数2	理1	10分	1	0	0	0	20
30	8:03	2分	英4	英4	理B3	国2			2分	2	5	0	0	45
31														
合計														



○ 4月の資料を右の棒グラフにするプログラム

```

100 SCREEN 3:CONSOLE 0,25,0,1:CLS 3
110 OPTION BASE 1
120 DIM A(30),K(30),C(30)
121 T$=CHR$(&HAA)+CHR$(&HFF)+CHR$(&H55)
122 T$=T$+CHR$(&H55)+CHR$(&HFF)+CHR$(&HBB)
123 PAINT(1,1),T$
130 COLOR 6
140 LOCATE 35,0:PRINT"生徒の行動形態を表すグラフ"
150 COLOR 0:LOCATE 0,1
160 FOR J=1 TO 30
170     READ C(J),A(J)
180 NEXT J
190 FOR J=1 TO 30
200     K(J)=A(J)/250*25
210     PRINT USING"### ";C(J);
220     COLOR 2
230     PRINT STRING$(K(J),"■");
235     COLOR 7:PRINT A(J)
240     COLOR 0
250 NEXT J
260 LOCATE 22,22
270 END
280 DATA 1,000,2,000,3,000,4,000,5,000
290 DATA 6,000,7,000,8,000,9,000,10,000
300 DATA 11,50,12,00,13,64,14,54,15,72
310 DATA 16,33,17,52,18,00,19,00,20,61
320 DATA 21,00,22,00,23,46,24,54,25,41
330 DATA 26,00,27,44,28,00,29,00,30,43
    
```



○ 5月の資料を右の棒グラフにするプログラム

```

100 SCREEN 3:CONSOLE 0,25,0,1:CLS 3
110 OPTION BASE 1
120 DIM A(30),K(30),C(30)
121 T$=CHR$(&HAA)+CHR$(&HFF)+CHR$(&H55)
122 T$=T$+CHR$(&H55)+CHR$(&HFF)+CHR$(&HBB)
123 PAINT(1,1),T$
130 COLOR 6
140 LOCATE 35,0:PRINT"5月の行動変容を示すグラフ"
150 COLOR 0:LOCATE 0,1
160 FOR J=1 TO 30
170     READ C(J),A(J)
180 NEXT J
190 FOR J=1 TO 30
200     K(J)=A(J)/250*25
210     PRINT USING"### ";C(J);
220     COLOR 2
230     PRINT STRING$(K(J),"■");
235     COLOR 7:PRINT A(J)
240     COLOR 0
250 NEXT J
260 LOCATE 22,22
270 END
280 DATA 1,000,2,52,3,000,4,000,5,000
290 DATA 6,69,7,32,8,68,9,40,10,000
300 DATA 11,36,12,42,13,44,14,31,15,26
310 DATA 16,31,17,080,18,80,19,79,20,68
320 DATA 21,54,22,44,23,18,24,00,25,00
330 DATA 26,49,27,37,28,23,29,20,30,45
    
```

